

令和 4 年度 男女共同参画意識に関するアンケート結果について

1. 目的

第 4 次石狩市男女共同参画計画の進捗状況および男女共同参画に関する市民意識を把握し、本市の男女共同参画推進事業に活用するため実施

2. 対象者の抽出方法

市内に居住する 20 歳以上の男女 1,000 人

- 1 地域別割合：旧石狩市 900 人、厚田区 50 人、浜益区 50 人
- 2 年代別割合：20 代、30 代、40 代、50 代、60 代以降を概ね均等
- 3 男女別割合：各世代を概ね均等

3. 期間及び方法

期間：令和 4 年 8 月 26 日（金）～9 月 14 日（水）

方法：対象者にアンケート書類一式を郵送、返信用封筒により回収 ※Web 回答も受付

4. 回収状況

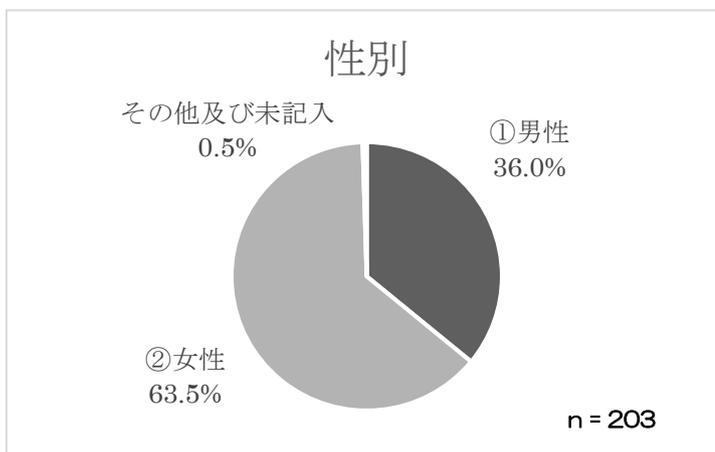
回収件数は 203 件で回収率は 20.3%

1 性別

男性は 14.6%、女性は 25.8%の回収率となっています。

項目 \ 性別	① 男性	② 女性	③ その他及 び未記入	合計
配布数(件)	500	500	—	1,000
回収数(件)	73	129	1	203
回収率(%)	14.6	25.8	—	20.3

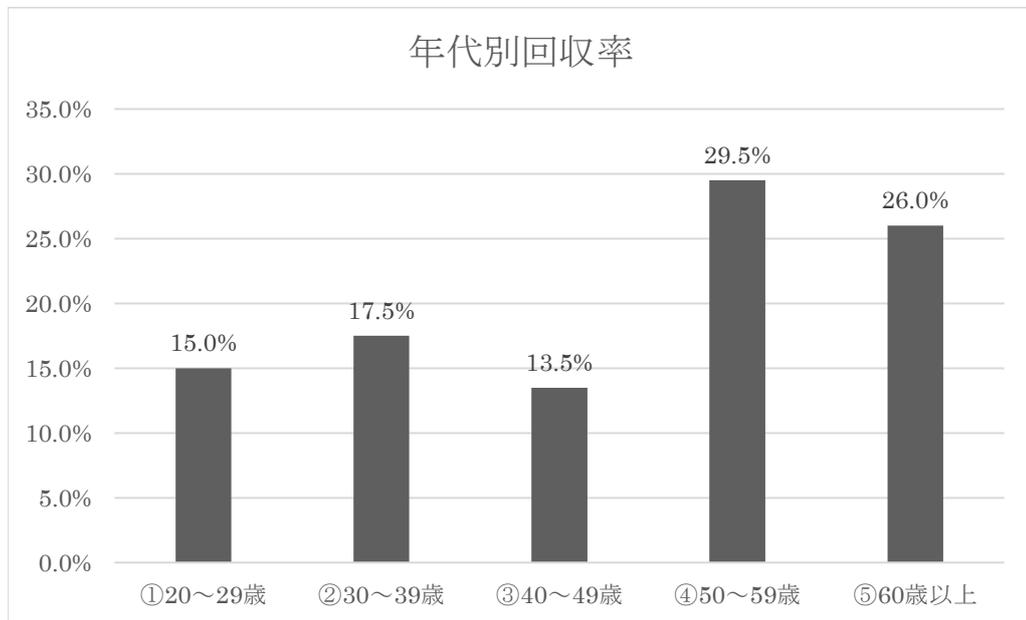
※LGBT などの性的マイノリティの人に配慮し、性別選択は必須項目としていません



2 年齢

④50～59歳が29.5%と一番高く、次が⑤60歳以上の26.0%と年齢が高い人からの回収率が高い一方で、①20～29歳、②30～39歳、③40～49歳が10%台と低くなっています。

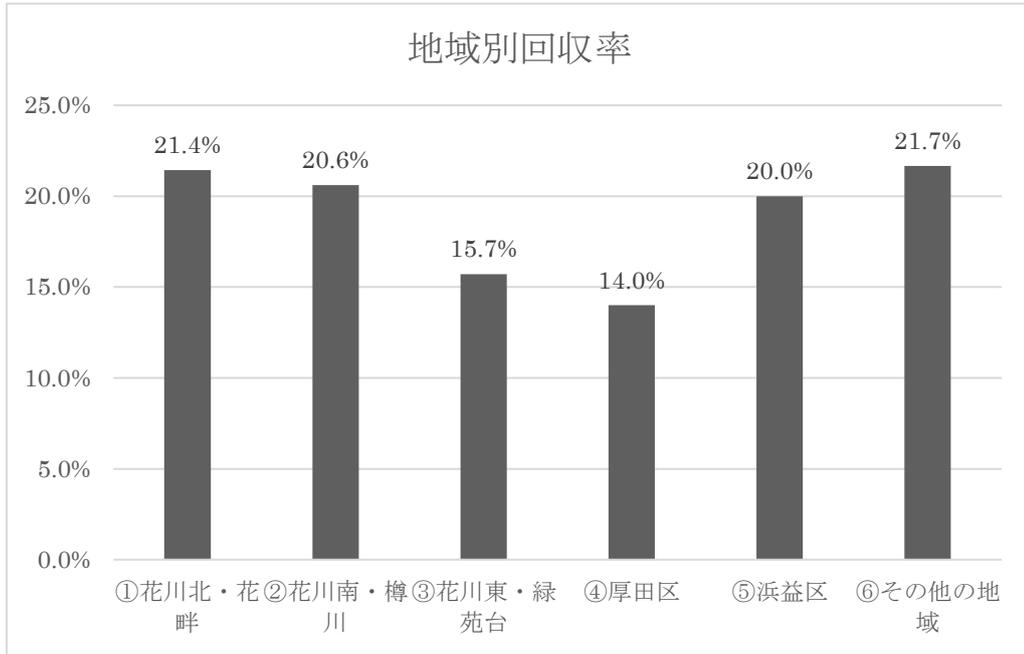
項目		年齢						合計
		① 20～29歳	② 30～39歳	③ 40～49歳	④ 50～59歳	⑤ 60歳以上	⑥ 未記入	
配布数(件)		200	200	200	200	200	—	1,000
回収数 (件)	男性	11	7	7	21	27	—	73
	女性	18	28	20	38	25	—	129
	未記入	1	0	0	0	0	—	1
	合計	30	35	27	59	52	—	203
回収率(%)		15.0	17.5	13.5	29.5	26.0	—	20.3



3 お住まい

③花川東・緑苑台が15.7%、④厚田区が14.0%となっているほかは、20%以上の回収率となっています。

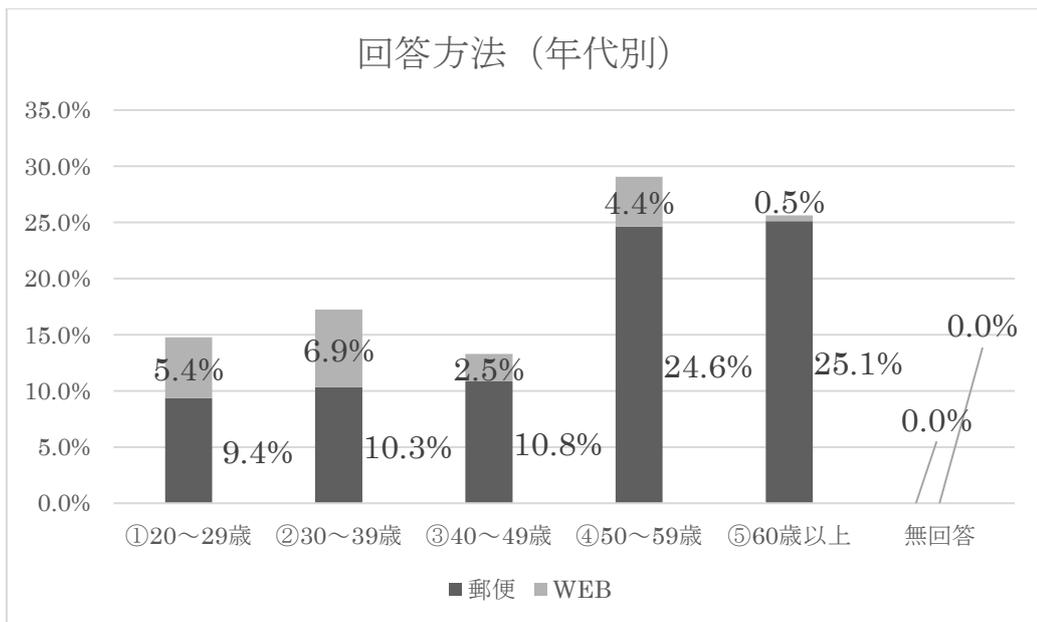
項目		地域							合計
		① 花川北・ 花畔	② 花川南・ 樽川	③ 花川東・ 緑苑台	④ 厚田区	⑤ 浜益区	⑥ その他 の地域	⑦ 未記入	
配布数(件)		280	490	70	50	50	60	—	1,000
回収数(件)		60	101	11	7	10	13	1	203
回収率(%)		21.4	20.6	15.7	14.0	20.0	21.7	—	20.3



4 回答方法

郵便で回答した人は163人、Webで回答した人は40人となっています。

年齢 項目	① 20～29歳		② 30～39歳		③ 40～49歳		④ 50～59歳		⑤ 60歳以上		⑥ その他及び 未記入		合計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
郵便	19人	9.4%	21人	10.3%	22人	10.8%	50人	24.6%	51人	25.1%	0人	0.0%	163人
Web	11人	5.4%	14人	6.9%	5人	2.5%	9人	4.4%	1人	0.5%	0人	0.0%	40人
合計	30人	14.8%	35人	17.2%	27人	13.3%	59人	29.1%	52人	25.6%	0人	0.0%	203人



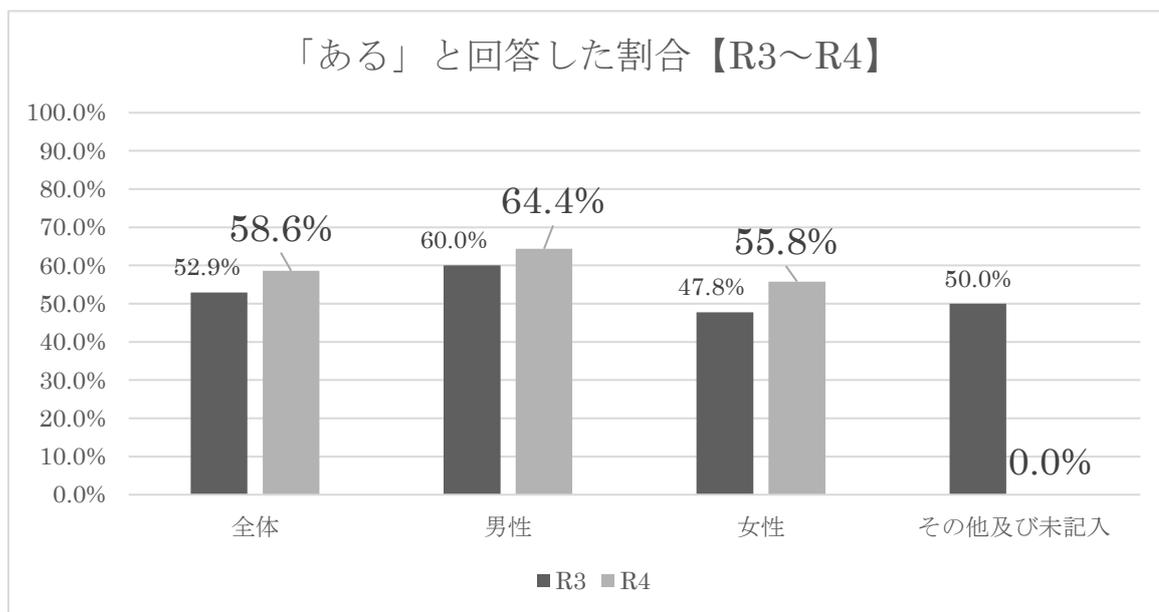
5. 分析結果

問1：あなたは、「男女共同参画社会」という言葉を見たり聞いたりしたことはありますか？

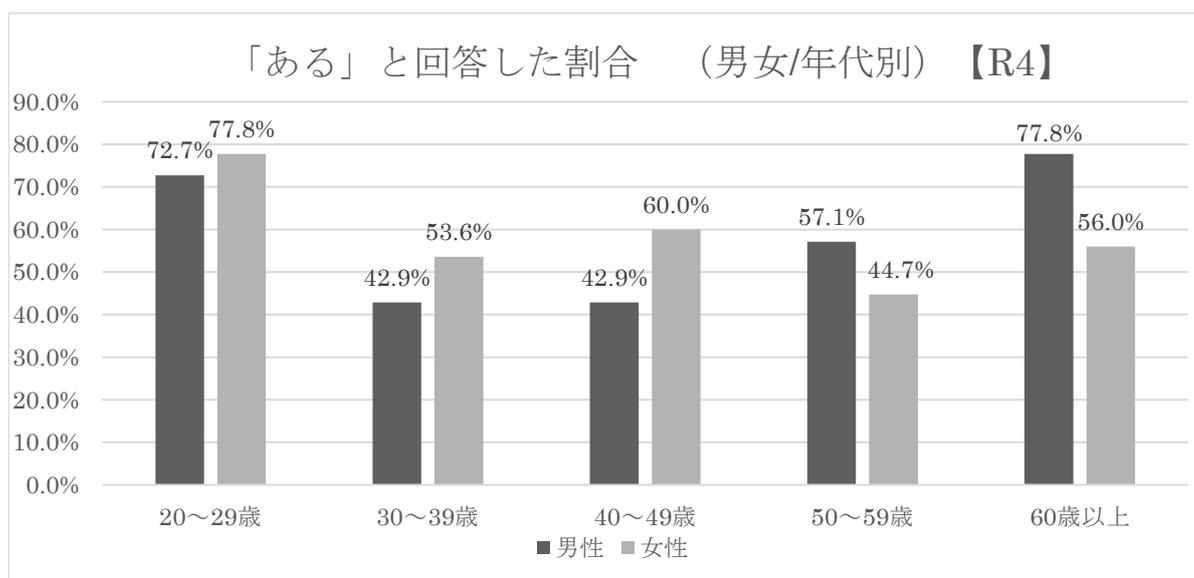
① ある ② ない

※以下 R3：n=238（男性 n=100、女性 n=134、その他及び未記入 n=4）

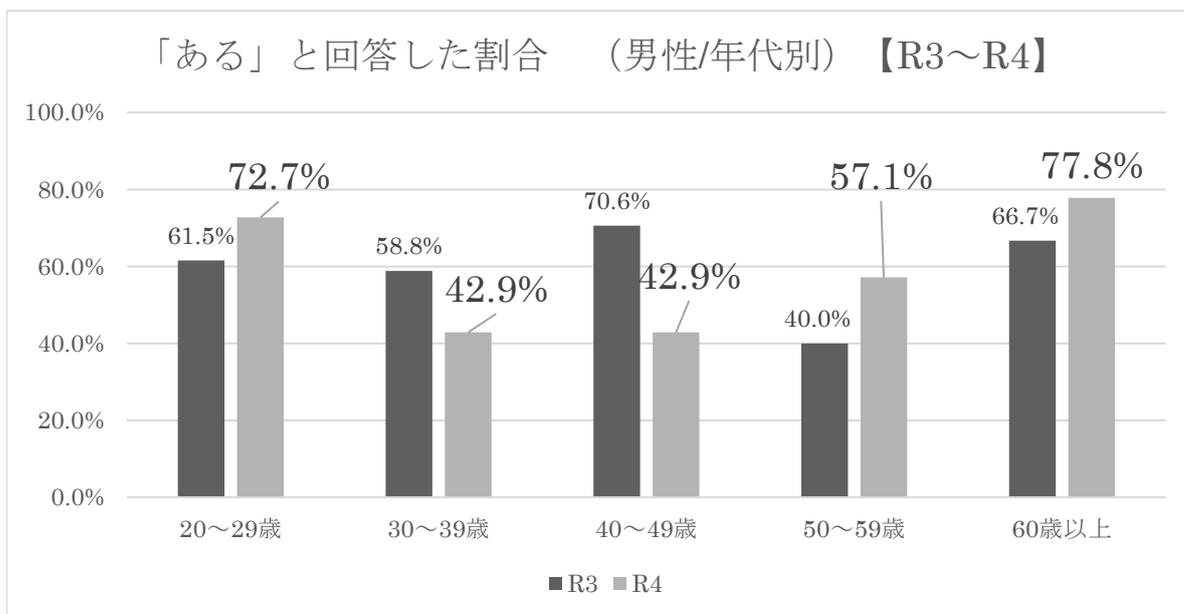
R4：n=203（男性 n=73、女性 n=129、その他及び未記入 n=1）



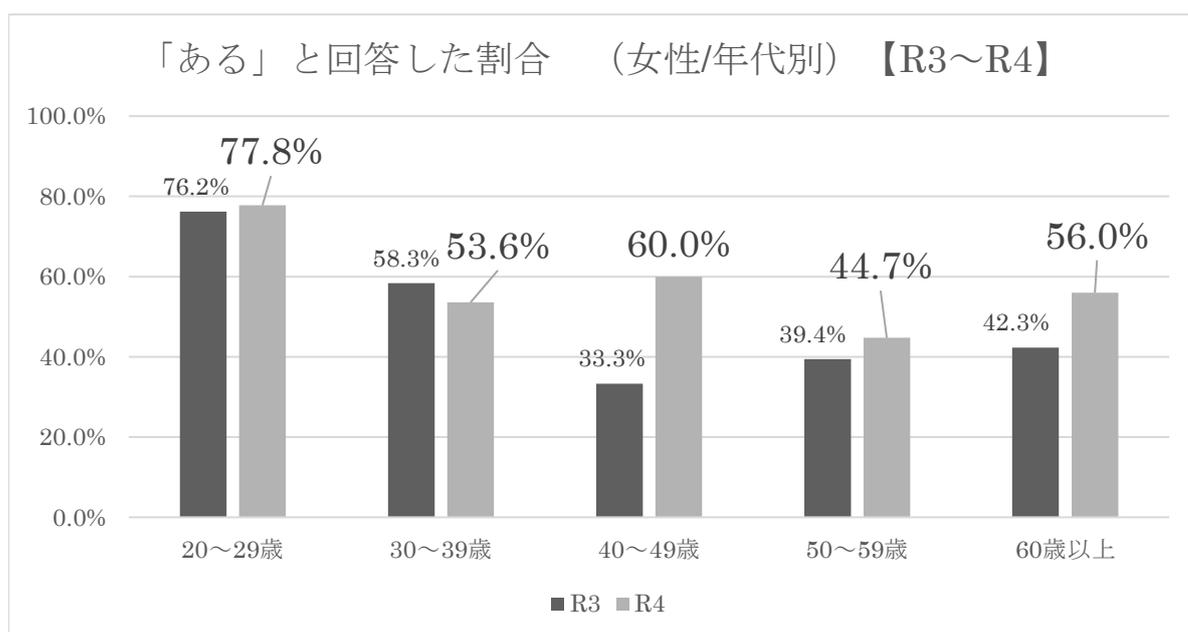
・約 60%の人が見たり聞いたりしたことが「ある」と回答しており、「男女共同参画社会」という用語の周知度は前年度調査を上回っています。



・男性は 20～29 歳と 60 歳以上が 70%以上と高い一方、30～39 歳と 40～49 歳が 42.9%と低くなっています。女性は 50～59 歳を除く全ての年代で 50%以上の人が認識しています。



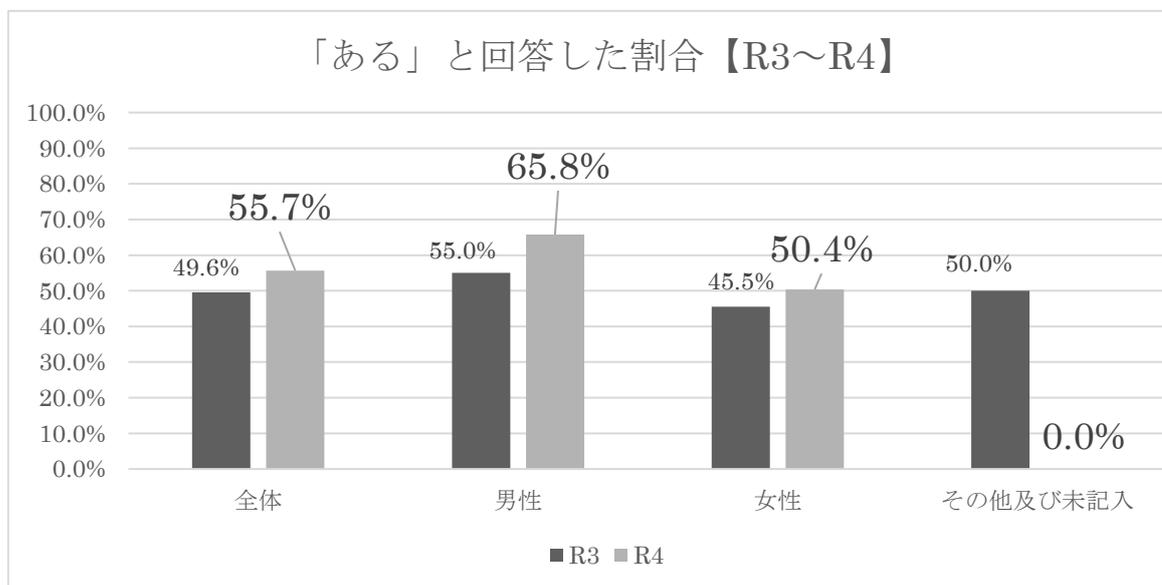
- ・ 30～39歳と40～49歳を除く全ての年代で前年度調査を上回っています。特に20～29歳と60歳以上は70%以上の人が認識しています。



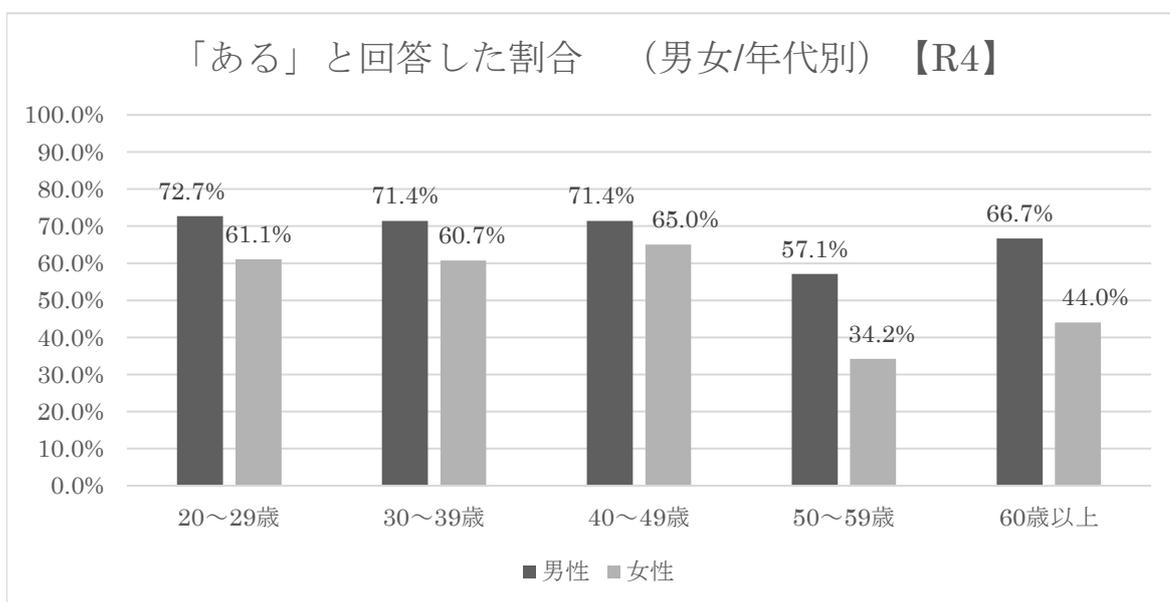
- ・ 30～39歳は前年度調査を下回っていますが、それ以外の年代は前年度調査を上回っています。

問 2：あなたは、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉を見たり聞いたりしたことはありますか？

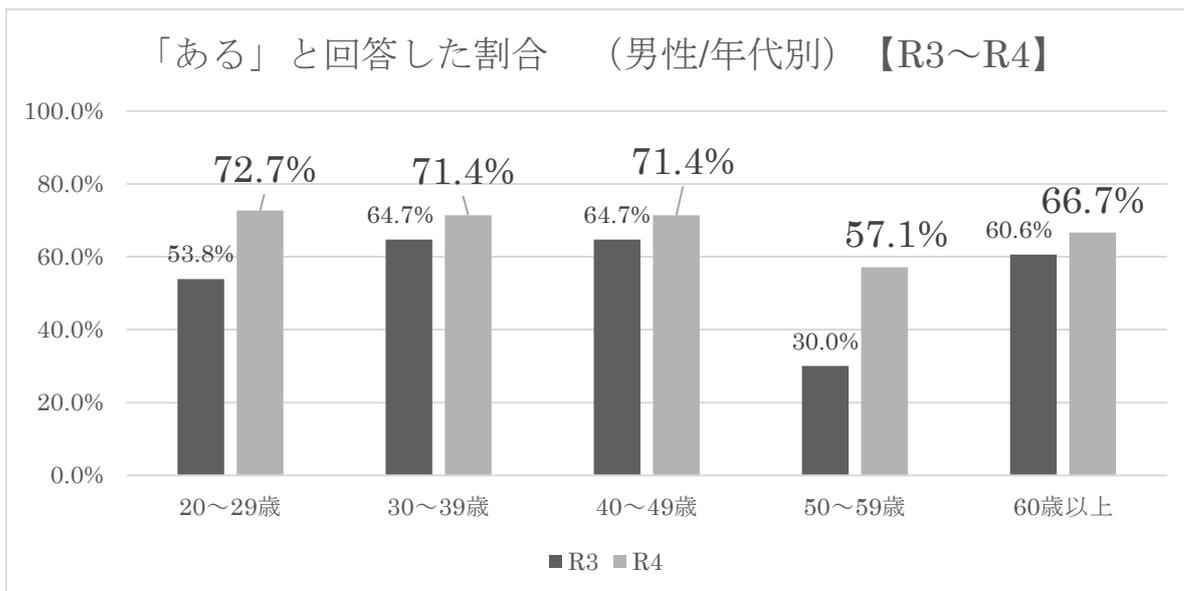
- ① ある ② ない



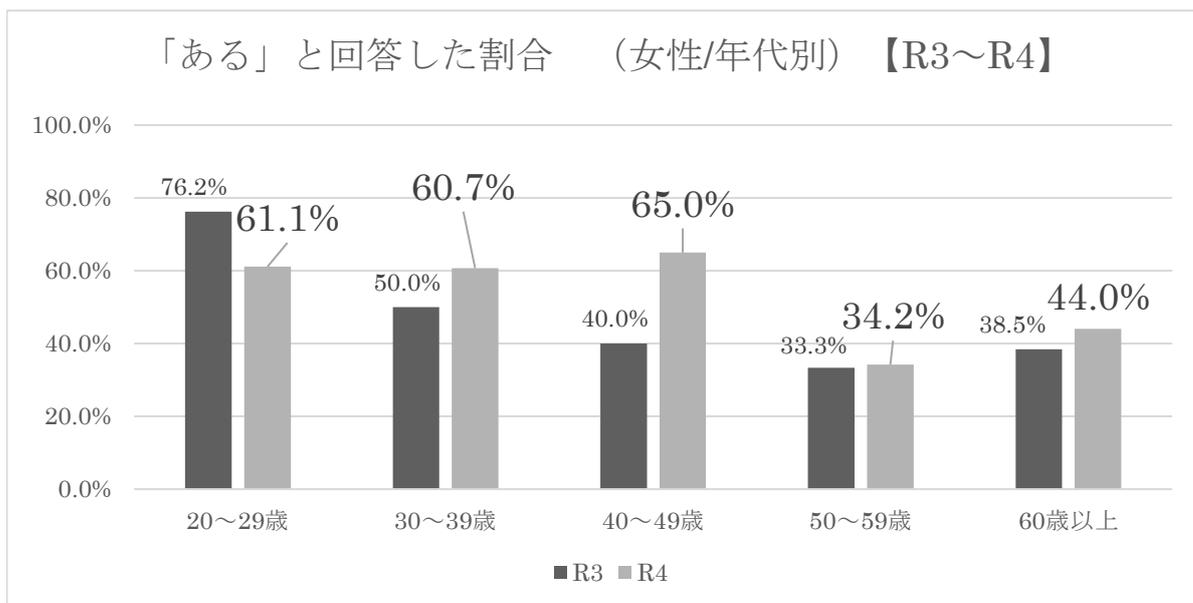
- ・見たり聞いたりしたことが「ある」と回答した人の割合は前年度調査より高くなっており、55.7%の人が認識している結果となりました。また、男性の認識している割合は、女性の認識している割合よりも高いことが見受けられます。



- ・男性は全ての年代で50%以上の方が認識しており、20～29歳、30～39歳、40～49歳は70%以上と高くなっています。女性は20～29歳、30～39歳、40～49歳が60%以上と高い一方、50～59歳と60歳以上は50%以下と低くなっています。

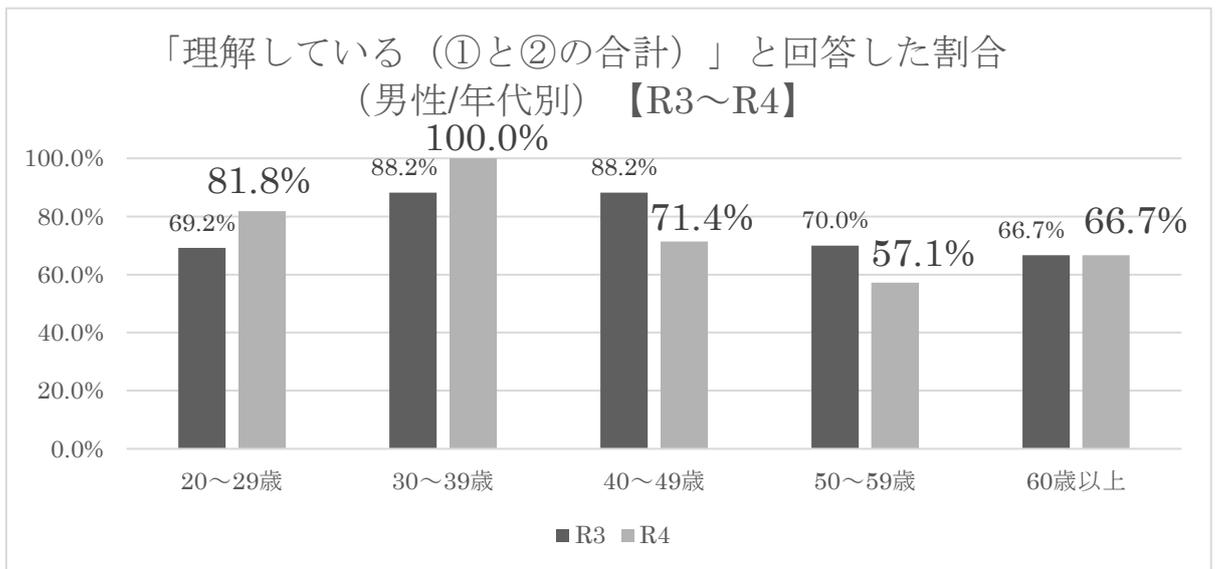


・全ての年代で前年度調査を上回り、50%以上となっています。

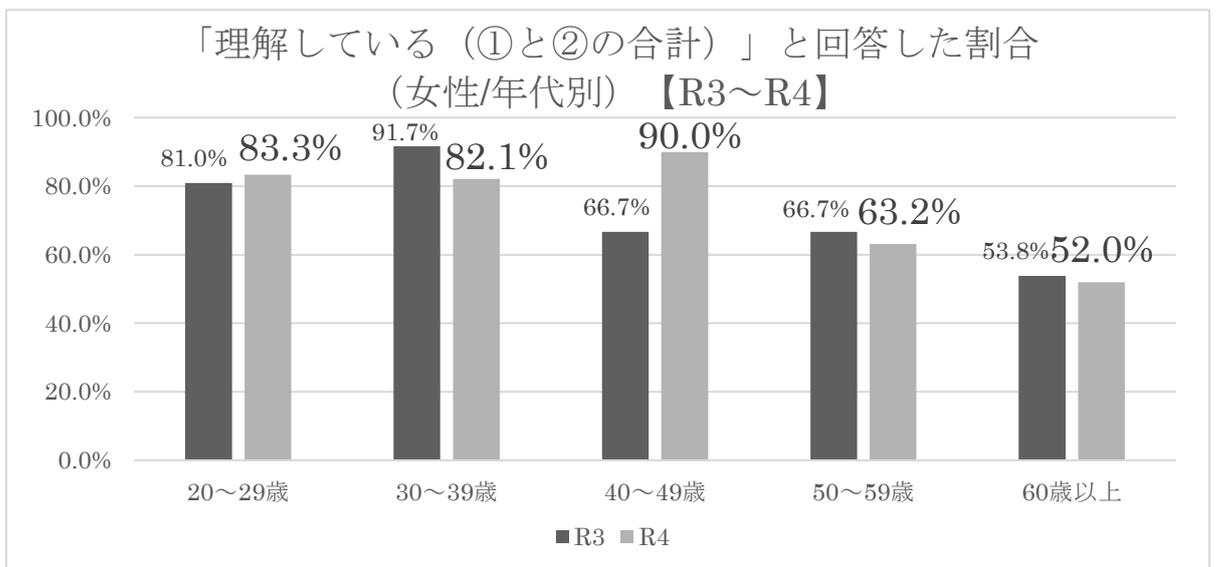


・20～29歳を除く全ての年代で前年度調査を上回っています。

※問3「あなたがワーク・ライフ・バランスを実現するために心掛けていることや、実践したらよいと思うことがありましたらご自由にお書きください」については13ページに記載しています。



- ・20～29歳と30～39歳で前年度調査を上回り、60歳以上では横ばいとなっています。



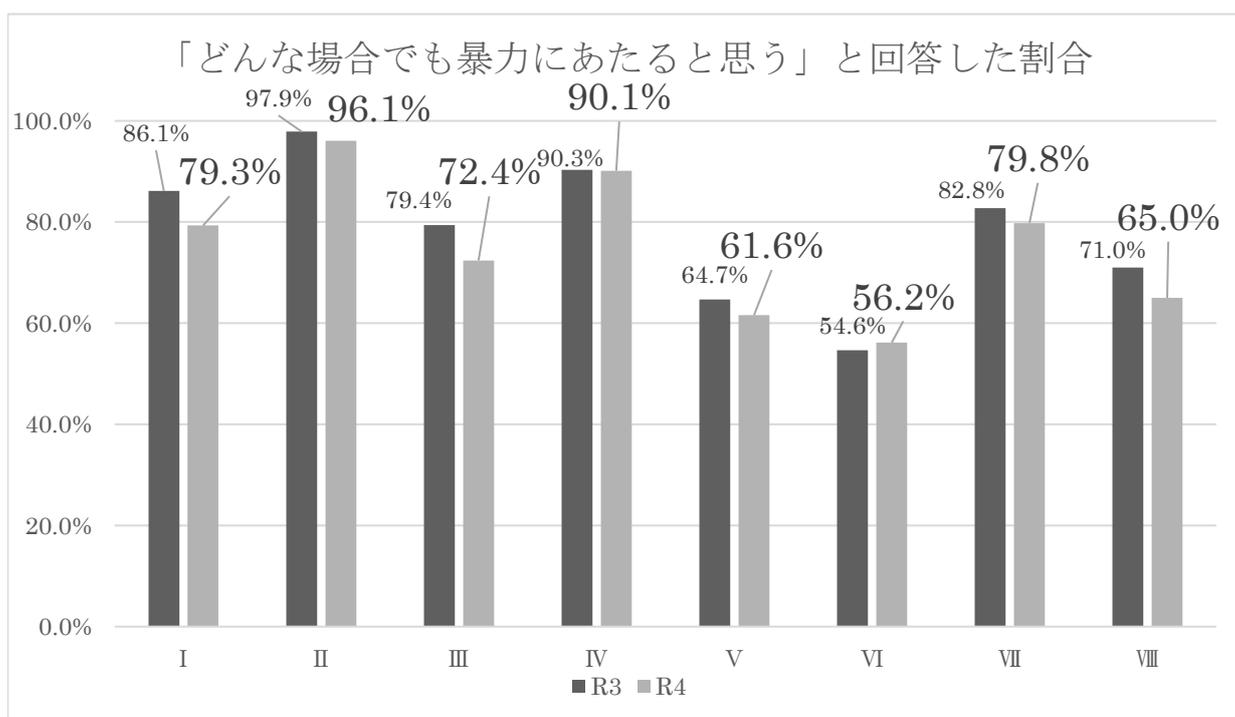
- ・20～29歳と40～49歳で80%以上と前年度調査を上回っており、特に40～49歳は前年度調査を大きく上回っています。一方で30～39歳、50～59歳、60歳以上では前年度調査を下回っています。

問 5：あなたは、次のようなことが夫婦（恋人）間で行われた場合、それを暴力だと思いますか？
 （各項目について、あなたの考えに近い番号をいずれか 1 つ選んで○をつけてください）

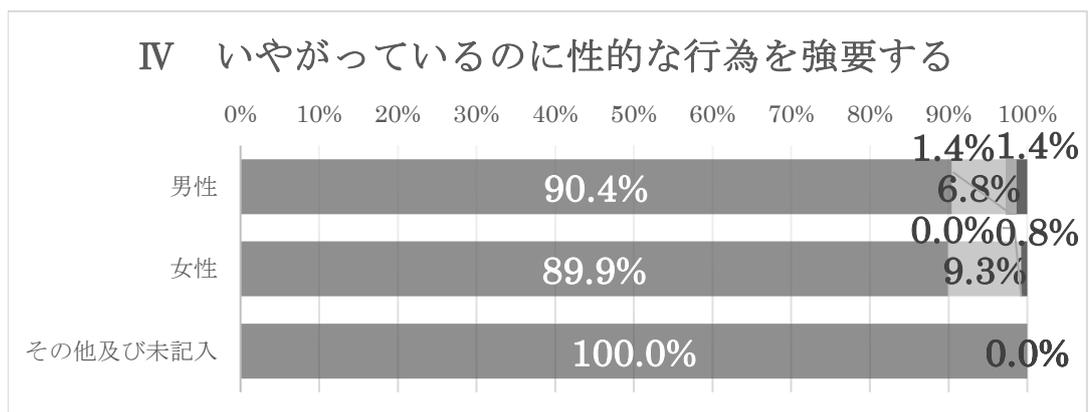
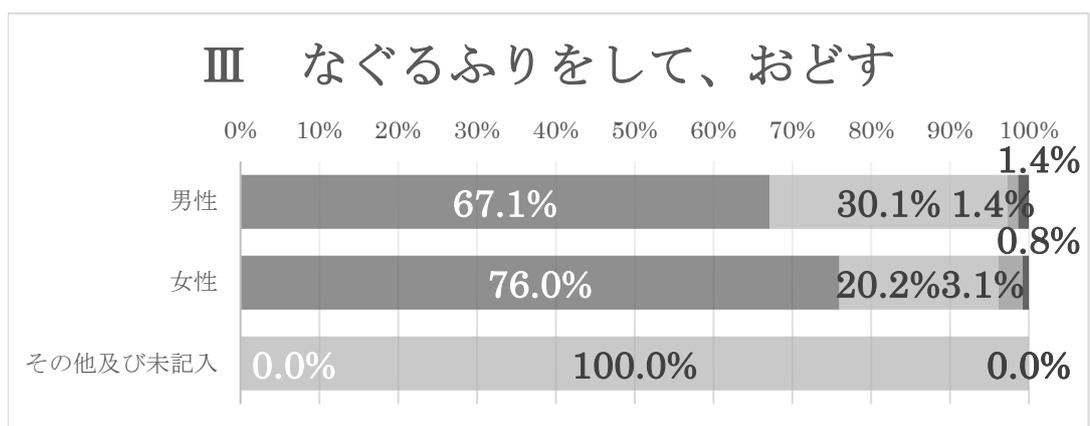
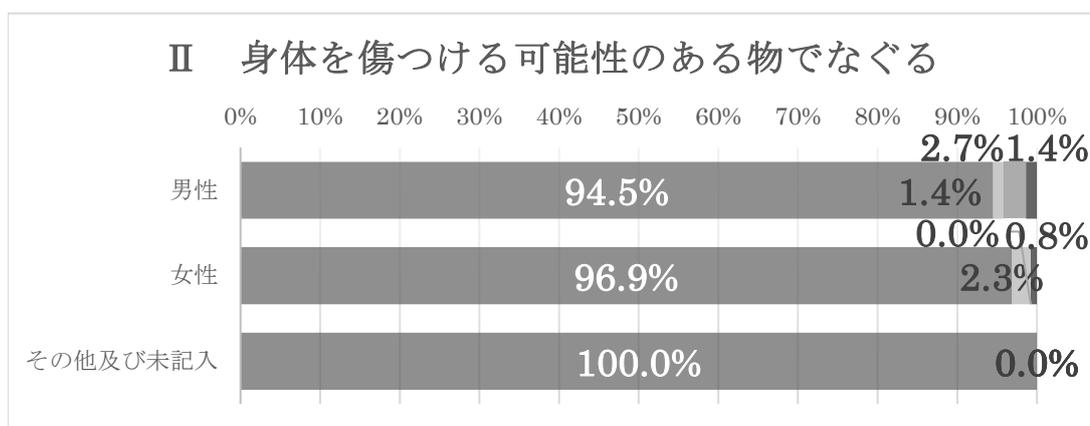
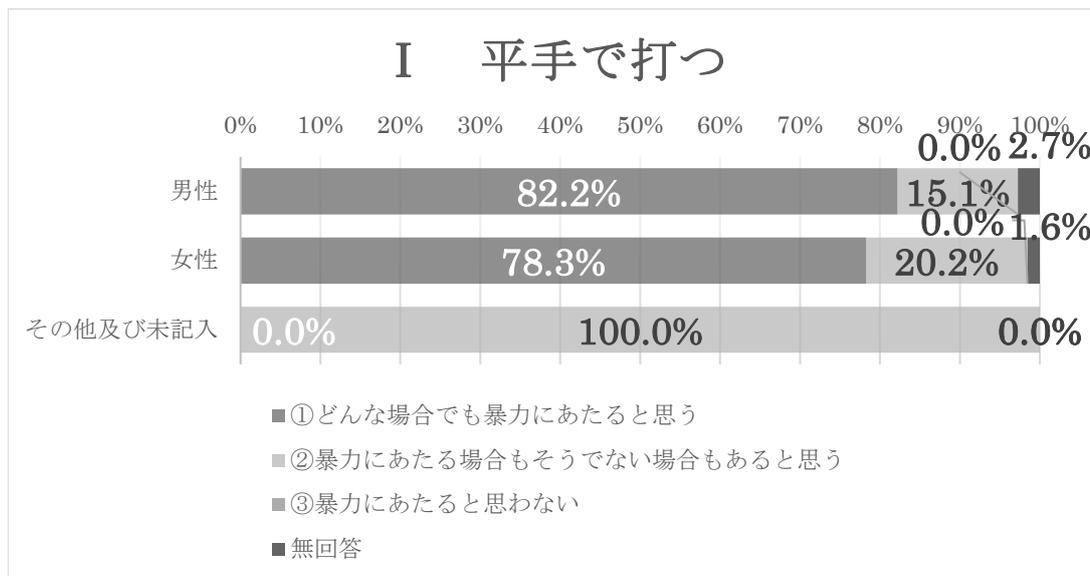
※「夫婦」には婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれます

- ① どんな場合でも暴力にあたると思う
- ② 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
- ③ 暴力にあたるとは思わない

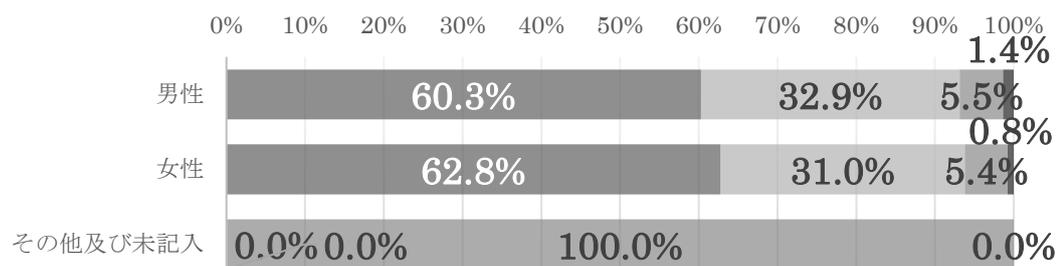
	項 目	回 答		
I	平手で打つ	①	②	③
II	身体を傷つける可能性のある物でなぐる	①	②	③
III	なぐるふりをして、おどす	①	②	③
IV	いやがっているのに性的な行為を強要する	①	②	③
V	何を言っても長期間無視し続ける	①	②	③
VI	交友関係や電話を細かく監視する	①	②	③
VII	「役立たず」など、人格を否定するような暴言を吐く	①	②	③
VIII	大声でどなる	①	②	③



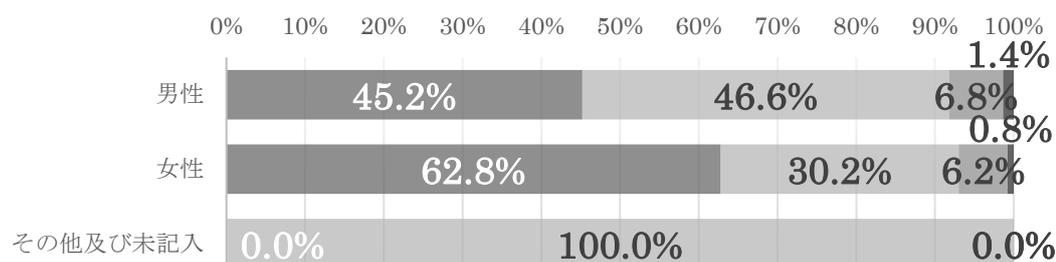
- ・全ての項目で半数以上の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答しています。
 V～VI、Ⅷの精神的な暴力について認識している割合が低く、特に「VI 交友関係や電話を細かく監視する」が 50%台となっています。



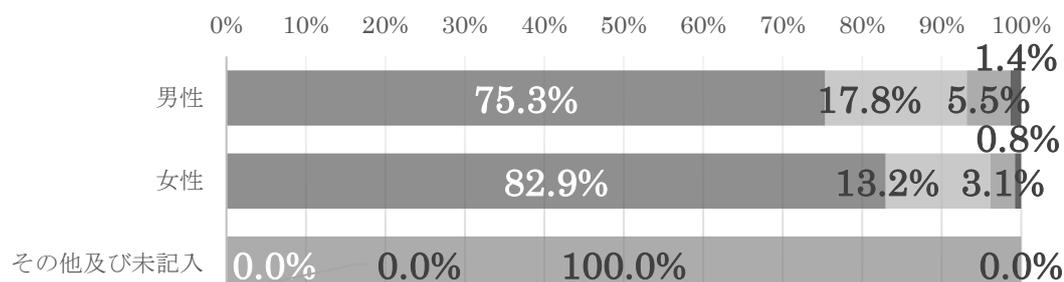
V 何を言っても長期間無視し続ける



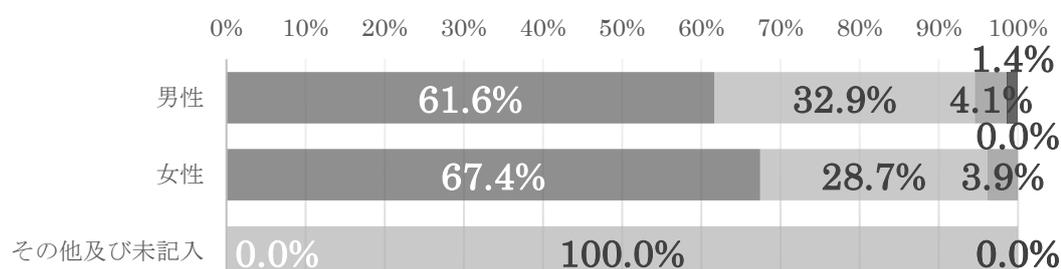
VI 交友関係や電話を細かく監視する



VII 「役立たず」など、人格を否定するような暴言を吐く



VIII 大声でどなる



- 男女間の認識の差については、「III なぐるふりをして、おどす」「VI 交友関係や電話を細かく監視する」という行為で「どんな場合でも暴力にあたると思う」と認識する女性の割合がそれぞれ 8.9%、17.6%男性より高い結果となっています。
- また、「V 何を言っても長期間無視し続ける」「VI 交友関係や電話を細かく監視する」という行為は「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」と認識している割合が男女ともに約 30%以上と高くなっています。

問3：あなたがワーク・ライフ・バランスを実現するために心掛けていることや、実践したらよいと思うことがありましたらご自由にお書きください

20代女性（8件）

- 勉強しすぎると身体や精神的健康に悪いです。私かと頑張って疲れていたの、私は家で安心できません。家庭と仕事で自分の人生を楽しむ休暇を過ごすことが重要です。それは家族や友人と過ごすことでもあります。
- 無理せず働きやすい環境を作る。
- 休日を確保できる企業に勤める。
- 子育てや介護等をされている方はもちろん、そうでない方でも時短勤務など、自由に休みを取れるようになれば良いと思う。
- コミュニケーション。
- 時には休むことも大切と思ひ過ごす。
- 男性の育児に対する興味や自覚、協調性を高める。それによって家庭内でも男性が活躍し社会復帰した女性が働きやすい環境になると思う。
- しっかり食べてしっかり寝る。

20代男性（5件）

- 残業をできる限りしないように心掛けている。
- 職場が休みやすい環境を提供することが重要である。
- 給料を上げ、所得を増やす。
- 仕事はなるべく残業せず定時に帰宅するようにしている。生活を仕事1本だけにしないように、休日は家族と共に過ごす時間を大切にしている。
- 仕事を家庭に持ち込まない。

30代女性（16件）

- 休日の中でも週に1日は必ず家事もやらず、完全に「休日」モードになるよう調整してます。
※前日の夜に洗濯や次の日の夕飯作りを済ませます。
- 子育て支援を増やして欲しい。石狩市には17時以降に空いている小児科がないので働きながらだと小児科に行きづらい。
- どんなに忙しくても19時までには退社する。仕事が溜まっても休日出勤はしない。休暇を取得する（いずれも有事の時除く）。
- 休みをちゃんと取る。
- 実践したらよいと思うことより先に、ワーク・ライフ・バランスという言葉あまり聞かないので実践できてる人は少ないと思います。多様な生き方の選択が必要だと思いますが、どのような選択肢があるのか、実現できるのかなど一人で判断したり、出来ることではないので、まず言葉や意味、内容を広めて話し合う場をもっと考えていけたらいいなと思いました。
- 正社員で働いていると、ワーク・ライフ・バランス実現は不可能。パートタイマーでいたら、パートナーは「更に時間あるからやれよ」的な考えになりがちで、結局自分の時間がない。もっと男女関係なく、家事育児も平等に男性と男性側の会社も理解してくれる環境整備が必要かと思う。会社でも、もっと効率の良い働き方改革をしてもらいたい。そして、もっと子育てのしやすい環境があると嬉しい。家から出て働くことは気分転換にもなるので、上手くバランスのとれた育児環境を求める。
- 頑張りすぎない。
- 私自身、仕事にやりがいと責任を持って働いており、主人も私の意志を尊重してくれていま

す。共働きなので、家事は主人にも手伝ってもらいながら協力し合っています。

- 1人で頑張らないこと（周囲を頼ること）。
- あまり考えたことがなかった。
- フルタイムで仕事をしているけど、家庭のこともきっちりやると心身共に大変なので、手を抜けるところは手を抜いて楽したりしてます。
- 共働きのため、家事は夫婦で協力して実施している。仕事はできるだけ時間外をせず、勤務時間内で働き残った仕事は別日に行く。定時で上がることで家事をする時間ができる。
- まだ仕事は復帰していませんが、子育てをしながら地域との関わりを大切に、今後の社会復帰をスムーズにできるよう、心掛けております。
- 休みの日は仕事のことを考えないように自分の好きなように過ごしてリフレッシュする。
- 家電製品に頼ったり、家事の手を程よく抜く。
- 男の人も当たり前のように家事をしてほしい。

30代男性（2件）

- 子どもが体調不良になった時に仕事を休める環境になればいいなと思います。
- 仕事を職場で終わらせ持ち帰らない。自分に合った働き方や休憩の取り方を工夫する。

40代女性（11件）

- 家族との時間の使い方。できる限り家での仕事を持ち帰らない。
- 自分のことをよく知る。
- 無駄な残業はしない。
- ワーク・ライフ・バランスについては今仕事をしていないので、もし仕事をしていたらと想像しかできません。精神疾患を患っている身としては肩身が狭いです。
- 心掛けていること：家ではなるべく仕事をしない。実践したらよい：完璧を求めず多少手を抜く。
- 男だから女だからと役割を決めずお互いや家族まわりの人みんなに頼り頼られながら尊重しあいバランスを取っていく。
- 今2歳の子どもがいるので無職でいるが、もう少し手がかからなくなったら仕事に復帰したいと考えている。しかし、夫も不規則な時間で働いているのでどちらを優先したらよいかと悩む。家族のためと思って自己犠牲にならない社会になってほしい。
- 国によるさらなる育休取得の推進、ノー残業デーの推進（掲げるだけで実践されていない印象）、中途採用の年齢上限の底上げ（実際は若年層を求めている印象）。
- 仕事をするシングルマザーですが、一生懸命仕事をするのは良いのだけれど1人の人としてしっかり休んだり、好きなことをして「優しさを忘れず、目配りできる大人」であることを保っていかなければなと思いました。
- “外に働きに行く者は家事をしなくてもいい”という意識を変えたい相手がありますが、全く変わりません。諦めることも大事な気もしてきます。
- 長時間労働をなくす。健康診断を受ける。給料を上げる。

40代男性（3件）

- 職場での業務シェアを心掛けています。またその業務シェアを行うために後進の育成に力を入れています。これにより時間外勤務の低減には繋がりました。
- 曜日や日程を決めて、行動計画を立て実現するための仕事を進めていく。自由になるためには時間の管理が重要だという考えを持たせていく場面を作っていくことが必要だと思う。
- 能力に応じた仕事をさせる。今日やること、繰り返し越すことを意識し仕事させる。

50代女性（14件）

- 私生活を楽しめる位の仕事をしている（勤務日数、時間、仕事の内容、給料等）。
- 有給休暇の取得くらい。
- 仕事のことは、うちには持ち帰らず自分の時間と仕事を切り替える趣味で、リフレッシュする。
- 生活保護の若い人に甘すぎと思います。病気もないのにどんな仕事でもやる気があれば何でもあるのに一度もらったら働く気がなくなってしまう。シングルマザーとか聞こえはいいけど、ただわがままで離婚して子どもがいるだけの人、内緒で夫と行き来してる人、たくさんいます。
- 仕事においては、就業時間内で集中し行っています。オンオフをつけるよう努めています。今は家族との時間を大事にしています。できる範囲で地域の方との交流を図っています。札幌市から転入しましたが、石狩市は役所の方に心の余裕があり、ライフも大切にできるところと感じております。
- 性別（男だから、女だから）ではなく2人で子育てをする、そして職場や社会もその環境を整えるようになってほしい。年齢にとらわれない偏見。
- 男性の家事・育児分担により女性が仕事をし、経済的に自立もできる。
- パートを週3日しかしない（できない）。本当は仕事に重点を置きたい。
- ここ数年は意識的に考えています。良い仕事のために休日も大切にするという考えが昭和には難しいときもありました。個人的にはワークアズライフで考えることが多いです（寝ているとき以外はすべて仕事である）。
- 地域の活動、子どもの学校の活動になるべく積極的に参加していきたいと思っています。
- 生活の質が向上するような仕事を選択するようにする。仕事は生活するための収入を得るために必要であるが、その仕事を続けることによって心の安定が得られないなどの状況にあるならば違う道を探す。
- 有休を積極的にとっている。
- 休日をしっかりと確保すること。時間外は仕事のことはなるべく考えないこと。仕事とプライベートの切り分けがきちんとできないとワーク・ライフ・バランスの実現は難しいと思います。
- 65歳以上の方がボランティア活動をしていると聞きます。その中に「ベビーシッター」や「お留守番」などがあると少子化問題や若い方の働く意欲の手伝いになるのではと思います。まだまだ女性の負担が多いように感じます。

50代男性（8件）

- 50代を過ぎると、仕事は目をつむってでも進むようになるし、家庭内での問題もクリアしてきている。趣味にお金を掛ける事はないが、それなりに夫婦間で楽しく生活はできている。そこでワーク・ライフ・バランスと言うカッコよい言葉であるが昭和時代なら強行に推進しても効果はあったかもしれない（無理かな）。現代社会では、まず人材確保が難しく、その人材が一体何を目標に生きているのかが掴みにくい人格が多い事に驚く。そこで、長期社員達はあたり触りなく接する事になる。何故ならハラスメントが怖いから。するとなにか起こるかと言うと、仕事の難しさや本質、そしてなにより個人の能力に違いが出てきて部署間でのバランスが悪くなるから、クレームが出てくる。そうになると、仕事終わりでの会合や個人間でのコミュニケーションが減ると更に判りづらい問題がふつふつと暗躍する。いったいハラスメントは誰の為にあって仕事や家庭・趣味を共有する事は一定の人達が満足するものではないかと最近思い始めた。確かに、諦めてはいけない事だとは思いますが殺伐としていて、言葉で

はなくラインでは話せるが、目と向き合って話す事の重要性人間の本质を世代間を超えて訴えていった方が理にかなってると思う。

- 健康。
- 仕事の話は家ではしない。
- 企業側に認識があまり無いように思います。行政での指導が必要と思います。
- たしか2007年に制定されたと思いますが、どれだけの人達が理解しているのかと思います。社会の理解、職場の理解、家庭での理解も必要です。調和をとるとは何が大切であるか、私たち一人一人が考えることが大切であると思います。
- 仕事が忙しいとバランスは難しいので、休日を大事にすること、また通勤前と帰宅後のときを大事にするように心掛けています。夜間や休日の運動施設の活用がもっとできる場所をもっと増やしてほしいです。
- 残業の減少。
- たくさんの時間を労働に割り当てないように8時間を目安に心掛ける。

60代以上女性（8件）

- 男女共に協力し合わないとダメかなと思う。
- 何でも小さい時の教育が大事だと思います。物事正しく判断したり、考えたりして成長し世のため人のために仕事をしようと思える心を育てるのが大切です。
- 私たち90歳くらいの世代は男性が仕事、女性は家庭全般をする。現代は変わり両方がゆとりのない厳しい世の中のように思います。せめて社会が勤務体制を守り、男女共に協力して山あり谷ありですが明るく進んでほしいです。
- 新聞などでの情報であまり理解しておりません。
- 健康の面からも身体が動く限りは仕事や社会と関わり、主人においても家庭の中で各人のことは主人自身にもやってもらいお互い自立した老後にしたい。
- 私の子育ての時代（30代）はまだこのような言葉はなかったのですが、今で考えるなら買い物等はまとめて行い、計画的に行動することによって残った時間を趣味等に使う。現在のところあまり良い案はできません。
- 現役世代ではないため、まずは健康に留意し周囲との円満な付き合いを最優先させてその上で年金の不足分を補う程度の収入を得られるよう仕事をする。
- 夫婦間ではお互いにやりたいことへの理解と寛容さを持つこと。何気ないサポートをし合うこと。職場や地域では、人間として多様な人格を認め受け入れ合う気持ちが大切。

60代以上男性（9件）

- 昭和生まれの仕事人間で、東京で暮らしていた時は子育てを全て妻に任せ、家族の事を顧みることはありませんでした。そんな生活の為に離婚の危機に直面、地方で家族とのゆっくりとした生活で夫婦関係、家族生活を立て直そうと思い、北海道にIターンしました。しかし北海道でも仕事人間に戻ってしまい、5年以上の東京での単身赴任を経て60歳で定年退職しました。今は夫婦二人暮らしです。食事・洗濯・掃除は全て別々にしています。人付き合いが苦手な事もありますが、地域活動・近所の方との付き合いもありません。ワーク・ライフ・バランスとは無縁に生きてきました。
- 地域にもっといろいろな企業が集まり、生活と仕事の場が近くなるともっとゆとりのある生活が送れると思う。
- 好奇心をもって日常過ごすよう努めています。
- 高齢者も自分のもてる能力を発揮できる場をもっと増やしてほしい。
- 石狩市居住3年目ですが、地域（町内）などの交流を深めていくよう夫婦共々共有している。

- 定年退職後、適当な再就職先がないので専らボランティア活動をしている（盲導犬協会の盲導犬育成や冬季の道路交差点周辺の除雪等）。
- 家庭内がぎくしゃくすることがないように心掛けている。高齢になると仕事が思うようにできない。でも我慢していることが多くなる。
- 夫婦共々家庭や地域生活の中でお互いに話し合い正しいこと、間違っただけを選択し合い生活すること。
- 「人間尊重」や「個性の重視」など個人の価値観が尊重される社会や職場の実現を目指し、多様な働き方が認められるよう自分のできることから取り組む。

問 6 : あなたが日ごろ感じている男女平等や男女共同参画についてのお考えやご意見がありましたらご自由にお書きください

20 代女性 (5 件)

- LGBT の人々は、社会の全ての人と同じ権利を持つべき。彼らを差別したり憎んだりしてはならない。女性と男性は平等であるべき。彼らは仕事や人間関係で平等であるべきです。女性や少女は男性を恐れるべきではない。女性は男性と同じ賃金をもらうに値する。女の子と男の子は、虐待的な関係がないように、お互いに相手を尊重する方法を教えなければならない。これは虐待だから、年上の人若い人を利用して恋愛してはいけない。
- 元々女性の立場が弱かったから、レディースデイや女性専用車両等で、女性が守られたり損をしないようにやってきたと思うけれど、そういったものがなくなかった時が本当の意味で男女平等と言えるのではないかと思う。また、女性の立場に目を向けがちだけれど、男性のことも置いてきぼりにしないようにしなければいけないとも思う。
- 男は仕事、女は家事・育児という風習は現代社会には適していない。男と女はそもそも違うのだから、支え合い助け合っていくことが1番。
- 「女だから」「男だから」といちいち言う人は意味が分からないと思います。今でも女の人は割引や無料で男の人は値段そのままなどのお店もよくわかりません。
- 義務教育で男児が大人になった時、家事、育児に参加しやすい、しなければいけないという考えを組み込んでほしい。女は育児、家事、男は仕事というのは分担であって絶対という考えを改めるべき。

20 代男性 (4 件)

- 職場では、上の役職になるほど、男性の割合が高い。
- 昨今聞く、男女平等論は聞くに耐えないと常々私は思う。彼らが脳死で言う男女平等なんていうのは出来もしない、優越感に浸りたいだけの戯言でしかない。そもそも人間皆平等ではないから。なのでその人その人に合った関係を、機会を築くように皆が努力する、これこそが真の男女共同参画のあり方であると思う。決して男女共に同じにしようとかそういうのではない。とりあえず今の情勢的に言っとけばいいやとか、自分のことを女性だか男性だかに置き換えて、自分の住みやすい世界を主張するものではない。要するに、雇用率を 50%ずつにしようとかするのでなく、男性だから、女性だからと言った理由で優先的に雇う、出世させるというのを無くす方向性でやれば良いのでは？と思ってます。もちろん職種にもよるけど。
- 私が働いている職場は、上司が全員女性で社長も女性です。入社した時は周りに男性がなくて戸惑いましたが、仕事を一から丁寧に指導してくださり、とても良い会社に就職したと思いました。最近では会社の人達とプライベートでも会うことが多く、私は男性中心、女性中心ではなく双方の意見を取り入れた環境を形成していけたら良いと思います。
- LGBTQ やジェンダーに関する教育を義務教育の中に取り入れるべき。

30 代女性 (14 件)

- 男女平等について。女性にとことん有利な言葉だと思います。場合によっては男女平等をか

かげ、女性の立場を訴えておりますが、重たい物を持ってもらう、食事に行ったら奢ってもらう・多めに出してもらう、レディースデイ等は甘んじて受け入れてるその女性の姿勢がある限り、本当の男女平等には至らないと常々感じております。男女平等は、男性側は勿論女性側も意識しなくてはならない事ではありますが、女性は女性の特権を残しつつ、男女平等を訴えている方がまだまだ多い様に感じます。

- 役職者は男ばかり。働いてない使えないおじさんの方が給料が良くして仕事のモチベーションが上がらない。
- 男女の管理職が均等でない役所の人間に、男女平等についてとやかく言われたくない。まず公務員からテコ入れしたらいい。
- 固定概念にとらわれず、個性と能力を発揮できる社会になってほしいと思いますが、周りを気にしないとイケない空気があり、自分をありのままに表現出来ない雰囲気があります。それは差別や言葉の暴力などの恐怖があるからです。また長い期間男女差別や格差がある生活を送ってきているので急に平等と言っても改善されない。長い期間をかけて改善されていくものだと思います。
- 男性側がもっと意識改革していかないと、無理かと思う。
- 矛盾しているところがたくさんあると思う。
- 北海道はまだ女性が働ける業種や職種の選択肢が少ない気がする。女性＝事務職という印象を感じているため、例えば営業職など表に出る職種も全然ありだと思う。
- 男女平等や男女共同参画という言葉をあえて使わなくても当たり前を実現する世の中であればいいなと思います。
- 旦那が家事も育児も積極的に取り組んでくれてそれを当たり前と思っているらしく、女が家事をするのが当たり前、男は手伝うのが当たり前、ではなくお互い尊重して当たり前と思う人が男女関係なく増えてほしいなと思う。
- まだまだ家事も育児も女性が中心になっている気がする。子どもの急病で休むのはだいたい女性。仕事して子どものお迎え行って帰ってご飯の支度や洗濯などやるのも女性。男性も仕事大変かもしれないけど、こなす量は断然女性の方が多くて大変。
- 相談窓口の名称で“女性の～”はあるのに“男性の～”がないのは男女平等とは言えないと感じる。男性も同じ境遇の人がいると思う。女性だけが弱い立場ではない。
- まだ、男女平等という言葉が実践できていることは少ないと日々の生活の中で多々思うことはあります。子育ての中では1番多く感じます。「ママだから～して当たり前」「女だから家事はして当たり前」「子育てはママがするのが1番」などご年配の方などに言われることが多く色々なことが男女平等であると認められる日が一日も早く来てほしいと思います。
- 男女平等は素晴らしいと思いますが、重い物を持ってもらえなくなったり、整理のときに甘えてると思われたりするのではと思っています。
- 女の人も働く人が増えているご時世、男の人がほぼ家事をしないのは腹が立つ。

30代男性 (2件)

- 最近女性社会参加も多くなり、女性の方も社長や上司になる機会も増えてきました。ただ介護職などは女性が中心職場であり逆に男性の風当たりが悪いように感じます。もっと平等になってくれれば働きやすいなと思います。

- 男女平等や区別についての判断が難しいと思う。相手に応じて柔軟に考えていけたらと思います。

40代女性（8件）

- 真っ当に生きていない私が考えや意見を言えるのだろうか。ただ、古い人間良く言えば人生の大先輩の皆様の意識が変わらなければだめなのかなと。私の場合は精神の病について理解してもらえないことが多いです。全てを理解してほしいとはもちろん思っていません。考えてみようかなというチャンスから逃げている人が多い。
- 手伝いではなく役割分担として男性も女性も家事をする。逆に男の人に頼みがちなことも女性も一緒にする（何かを直す、タイヤ交換、虫駆除など）。
- 思いやりの心、お互いの良し悪しを受け入れ理解し、できる人、気づいた人が自分がされてうれしいと思うことを自ら行動していく。
- 男はとにかく家事や育児を「手伝う」というスタンスでいるのが不思議。共に生活していくのに協力する、協力しなければならないという考え方になってほしい。
- 育児、産休による職務への意欲。女性側にも仕事<家庭になる面が増え、男性の不満も同情できるが、はなから女性の産休等の面を見越した給与面で男女に差があることも問題である。
- 私や主人の会社は男女差別感なく働きやすい環境にありますが、周りの男性が多い職場にいる女性（逆も含め）は働きづらさを口にする友人もいます。上に立つ人間が働く者への説明や男女共に働けるような気配りが必要。「LGBT」については私の周りにも小さいころからいました。当時はよく分からず。今現在は自分の個性、生まれ持った気付いた個性、人格を変えたり、他人が否定することではなく、自分を変えずに生活できる環境が望ましいと思います。
- 全て。性的な部分だけとらえられているが、そもそも性別関係なく生活する上で必要なこととやるべきことは変わらないはず。“人として”どうするのがとても重要な気がします。“自分がされて嫌なことは相手にしない”これが全てのベースだと思います。
- 赤ちゃんからご高齢の方までを大切にしてほしいです。1人1人が安心して安全に生きていける社会、石狩市であってほしいと願います。暴力では何も解決できないです。これからを生きる子どもたちに素敵な社会をプレゼントしたいです。

40代男性（3件）

- 性別が違えばある程度の適任度合いは変わってくるとは感じているのが正直な所であり、決して性差別という意識ではない。意図的に仕事や役割は振り分けるべきだと思うが背景には男女共に尊重した意向の下に実施している。
- 男女平等の定義を教えることなく言葉だけを伝えようとしても伝わらない。もっと言葉の本質を伝えていける場所を展開してほしい（HP、Youtube等）。本気で取り組まないと浸透しない。
- 男女には性による役割があり、それを均一に家事や育児分担するというのは「平等」でも何でもないと思う。最近「個人」を尊重しすぎるあまり「相手」を思いやれないことがあり、教育の場での指導不足もあるのでは。LGBTなど少数の意見が尊重されないことを問題にする風潮があるが、その様な求めに従えば従うほど生きづらいことになる。

50代女性（13件）

- 今の時代、男女平等は良い事に思う。古い観念に捕われない方が夫婦関係がうまくいきそうだと思う。
- 以前からみると、育児や家事に対して、男性の介入が増えてきましたが、まだ、女性の負担が大きいと感じる。職場でも、子供のことで急な勤務変更は、男性は対応が難しいことが多いと感じる。
- 子どもの頃から自分自身を守る力を学ばせる教育が必要。ダメなことはだめ、嫌と言えることは大切。SOSが言える場所を多く作ると良い（優しく育てるのと心の弱さは違う。心の強さが大切）。
- 女性のドライバー、医師などが少しずつ増えていることは、選択や権利という点からとても良いことだと思います。ただ、生物学的に男女の身体には差がありますし、身体に合った役割もあるのではないのでしょうか。生理休暇も女性にとってはありがたい制度ですが、男性も更年期など大変なことはあると思います。平等と訴える中でも他者への思いやりは大切にしたいと思います。
- 基本目標の③はとても良いことだと思います。女性視点での避難所運営はとても大切だと「3.11」のとき聞いたことがあります。日本社会はまだ男性社会なので大変だとは思いますが、こういった活動は大切だと思っています。頑張ってください。応援しています。
- 50代以上はまだまだ古い考えに支配されている人が多いと感じる。若い世代からどんどん「今の常識」を古い世代に伝えて考えを浸透させてほしい。
- 40代以下の人達と50代以上の人達で考え方が違うような気がします。自分は50代ですが、やっぱり「女が家事や介護を行う」という考えが植え付けられていて、もう変えられないと思います。
- 男女平等は性質上難しいと感じていたが、共同という考え方は良いと思いました。人間という仲間的なものを捉えて、無理の少ない認め合え、助け合える社会なら生きやすいかと思っています。
- LGBTという言葉はよく聞きます。SNSやネットニュースなどでもよく見ますが、最近だと氷川きよしやりゅうちえるなんかの記事を見ます。詳しく書いてないので「実際はどのような？」という感じで理解したいのに本質的なことは理解していないのかもしれない。自分が小さいころからの経験の「あたりまえ」とか「常識」が違うってことを今後は理解しないといけないと思っています。
- 性別による差別はなくなってほしいが、身体の特徴や機能は違って当たり前なので、区別はされるべきだと思う。全て同じ量の仕事をこなすなどは平等ではないと思う。
- 個人の考え方が変わらないと中々男女平等にはならないと思います。
- 私自身は男女の雇用均等法世代で男性と同等の処遇や地位を求めてきた世代です。一方で男性と同等の責任を負って働くことと、家庭生活の両立の難しさも痛感してきました。「男女平等」と騒いでいるうちは所詮そこにとらわれてしまう気がします。今の若い人は自然に性別を意識せず、その感性を生かしていると思います。そうしたところを全世代で学んだら良いと思います。
- やはり職場や家庭内のパワハラ。男女平等が普通になってきても年齢差や世代の違いで上か

ら目線も多いのではと思います。この辺は変わらないです。

50代男性（5件）

- 私の社内は女性比率が高く、管理職も女性と男性の比率は同等となっている。その事に対して私個人の意見は、異論もないし、逆に社内的にも社外的にも効果はあると思っている。そこで、言わせて貰うと、この世の中に平等なんて物は存在しないという事。だからといって、固定概念にとられるのは良くないし大局との歩調は大切だという認識には異論はない。それは個人の意識レベルの問題で先ほども述べたが、幼少期からの人間形成が大きな要因を秘めていると思っている。民主主義と全体主義のバランスが壊れて来ている感覚を持ち、そして、優しさの本質はどこにあるのか、トップダウンを実行する事だけに捕らわれてはいないか、異論があるなら、激しい口論も出来る本質が備わっているか、共同参画なのか協働参画なのか、ぼんやりとしたイノベーションという言葉に担がれないようにしたいと思う。
- 政治家の女性比率をもっと高めるべき。
- 少子高齢化の中子育て環境が北欧と比べかなり遅れています。女性を守ることが様々な問題解決につながると考えます。日本はまだまだ平等とは言えず、国がリーダーシップを取り、制度化していかないと本当に平等とは言えないと思います。石狩市の今後に期待しております。
- 最近男女平等という言葉をよく耳にしますが、男女平等ではない部分が絶対あるので、もっと男性は女性を、女性は男性を頼りにしてもよいのではないのでしょうか。尊重し合うことは大事だと思います。
- 男女平等と言われるが、そのことに便乗して逆手に取り権利だけを主張する女性が一定数いることもまた事実である。

60代以上女性（10件）

- 身体だけでなく言葉の暴力もすごく怖いです。みんなに共有・周知して気をつけたいものです。
- 自分が言われたりされたりしたら嫌ことは相手にしない。
- これも小さいころからの親や教師、周りの大人の考えや教えが大事。昔から男尊女卑の下で育ってきて男の言い分が正しくなくとも、女は反論しにくく圧もかけられる。暴言にも女は辛抱してきたので、これからの世は男女平等尊重し合うのが大切と思う。
- 男女共同参画が発展し良い社会、楽しい家庭が築かれますように願っています。
- 今の若い人々は男女共に協力し家庭を築き上げるのですが、私たちは夫は仕事、妻は家庭子育てに明け暮れていたと思います。今思うことは夫も家庭のことにも参加しないと老後が困るだろうと思います。子どもたちへの関わりも老後に結果が見えてくると思います。
- 現代の若者世代は積極的に家事、育児に参加してるように感じており、とても良いことと思います。女性の社会進出がもっともっと広がり活躍できることを期待しております。
- 現代は男女平等は当たり前。私が高校2年のとき（60年前）ある思いがあつてケネディ大統領に手紙を書きました。するとジャクリーヌ夫人の秘書から返信があり、とても驚き嬉しく思いました。それによって夫人がいかに大統領を大切に思っているか感じ取りました。スペースが無いので書くことはできないのですが、こういう男女平等もあつてよいのではないか

とペンをとりました。その後ケネディ氏は不幸な死をとげました。その折も喪中のはがきが届きました。今でも大切にしております。

- 男女に限らず、人権を尊重し合える社会を作るよう特に政治に求めます。市への強い要望としては非正規職員の撤廃を求める。非正規職員に女性が多数を占めていることの根本原因への掘り下げも必要不可欠。その意識を高め制度改革を進めれば自ずと。
- 男女平等とは言えない世の中です。昔も今も男性が優位です。しかし男性の持ち分女性の持ち分を協力していくことは良いことです。身の丈に合った判断を双方することと思います。
- 今の政治への不信感が強く、発信者の政治家の意識改革が無ければ改善は難しいと思います。性差別や男女の雇用差別（非正規雇用等）から生まれる問題が山積みです。世界と逆行する日本の状況を危惧します。

60代以上男性（11件）

- 男性・女性関係なく、LGBT・国籍関係なく、皆が幸せに生活できる社会になって欲しいと思います。市民のそれぞれの意識でできないなら、公的ルールや仕組みを作って積極的に勧めるべきです。若い時に気付くべきでした。
- 多様性の尊重といったことが言われるようになって久しいと思いますが（少なくとも半世紀以上？）未だに第一歩の計画づくりの段階というのはなぜでしょうか。
- あえて男女平等とか男女共同参画とかいう言葉を使わないような社会が実現できれば良いと思う。
- 全て優しさをもってあたること。
- 意識せずに暴言を吐くことがあり、気をつけて生活していきたいと思う。
- 日本国内だけでなく全世界において男女差別は見られるが、教育、職業、社会的役職等機会均等に与えられるべきであり、能力ある者は男女を問わず登用されるべきと思う。
- 現在女性も外にでて働く人が大半だと思う。家庭内の仕事は女性に任せるのではなく話し合っって少しは分担してみるのが望ましいと思う。
- 役割分担にとらわれず男女お互いに協力し合い生活していく。
- 町内会の役員数を男女同数、会議の場合は進行係または議長を女性、男性で交互に行う。
- 男女平等とは男女を同等に扱う。そのための制度を整備するだけでなく「男だから、女だから」という物差しで見るのではなく、1人の人間として尊重されることから始まるのだと思います。
- 家庭内での日常の生活で互いに認め合うことが大事と思う。子どものころから家庭・学校等での男女の差別等をなくす教育・実践が必要。